

異郷からもたらされた土器

苦田ダムで水没した地域は、縄文時代から江戸時代にわたる遺跡が存在し、発掘調査により様々な成果が得られており、このコーナーでもたびたび紹介していますが、今回は縄文時代の特徴についてお話しします。

縄文時代は、今から約一五、〇〇〇前から約三、〇〇〇年前、実に1万年以上にわたる長い期間で、古い時期から草創期・早期・前期・中期・後期・晩期という六つの時期に大別されています。



近畿地方の特徴をもつ土器



東北地方の特徴をもつ土器



関東地方の特徴をもつ土器

久田堀ノ内遺跡では、吉井川の河岸段丘上に後期から晩期（約四、〇〇〇～三、〇〇〇年前）の溝や穴（土

壙）、火を焚いた跡、土器を廃棄した場所などが見つかっており、隣接する久田原遺跡では竪穴住居も存在し、この一帯では安定した集落が営まれていたことがわかります。

こうした遺構と共に縄文土器も多数見つかっています。土器は、時期や地域によってそれぞれの特徴があり、見つかった遺跡の時代や性格を特定する手がかりにもなるものです。久田堀ノ内遺跡で見つかった縄文土器は、多くは岡山県で一般的に出土するタイプであったのですが、全国

各地の土器の特徴をもつものが一部含まれていることで注目されています。

一枚目の写真の左側の土器片は、文様の特徴が奈良県橿原市の橿原遺跡の土器と似ています。また、右側の土器は、滋賀県大津市の滋賀里遺跡の特徴を持つもので、いずれも近畿地方で出土するタイプの土器です。

さらに二枚目の写真の土器は、大洞式土器という岩手県を中心とした東北地方の土器と同じ文様が施されています。三枚目の写真は、隣接する久田原遺跡からの出土ですが、櫛のような工具で土器の表面に鮮やかな曲線を描いています。これは関東地方の土器の特徴です。また、久田堀ノ内遺跡ではヒスイ製の勾玉も見つかっています。ヒスイは国内でも産出地が限られており、これは新潟県の糸井川流域で産出されたものと推定されていますが、

当時としても希少な装飾品がこのような場所にまでもたらされていたことは驚くべきことです。

この他にも、北陸系の土器も見つかっていますし、



ヒスイの勾玉

石器や石製品の石材は、香川県や隠岐島、そして南九州にまで及ぶことが明らかになっています。

このように、異郷からもたらされた土器や石器・石製品は、出土した遺物の全体量の割合からすればほんのわずかではありますが、久田の縄文人達が各地の人々から交易等を通して入手したものもあれば、各地の縄文人が久田に訪れて滞在し、そこで故郷の土器や石材を残していったものもあったでしょう。それは、人々が幅広く移動し、活発に交流をしていた縄文社会の縮図がこの久田地域でも展開されていたという証になっているのです。

参考資料：『久田堀之内遺跡』『久田原遺跡・久田原古墳群』『よみがえる久田の歴史』

生涯学習課 日下

電話(0868)54-7733